

山田地域

まちづくりと公共施設の
「これから」を考えるワークショップ

7月18日（土）に
開催しました第1回
ワークショップについて
お知らせします！

本市では、人口減少と超高齢社会の本格的な到来に伴い、今後ますます財政状況が厳しくなることが予想されており、このまますべての公共施設を維持し続けることは明らかに困難な状況となっています。

こうしたことから、限られた財源の中で、将来にわたって公共施設の適切な維持管理を行うため、施設の再編など「公共施設マネジメント」の取り組みを進めていますが、施設の再編については地域の皆様には様々な想いやご意見があることも承知しておりますので、地域の皆様のご意見を踏まえ、計画を策定していきます。

今年度は、山田地域・婦中地域の公共施設のあり方について、地域にお住まいの皆様と富山市がともに考えるワークショップを開催し、このワークショップで出たご意見や地域の実情などを受け止め、「地域別実行計画」（次ページ参照）の策定に反映させるとともに、地域の皆様が住み続けたいまちづくりを進めていきたいと考えております。

こちらの「ニューズレター」は、ワークショップで検討されている内容をお知らせするとともに、広く地域にお住まいの皆様のご意見を募集するため、お配りするものです。

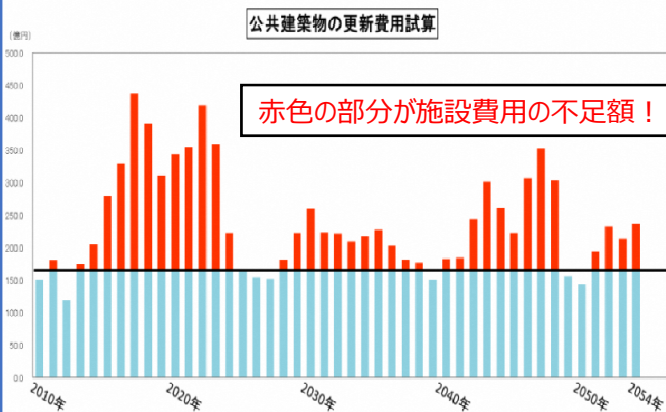
富山市における公共施設の現状と課題

◆ 公共施設の老朽化

富山市の公共施設の築年別整備面積を見ると、全体の40%がすでに建築後30年以上経過しています。

これらの築30年を超える建物は今後、大規模修繕や建替えが必要となり、多額の費用が必要となることが想定されます。

今ある公共施設をこのままの規模で維持すると、今後40年間で約3,300億円、年平均82.5億円が不足すると見込まれます。

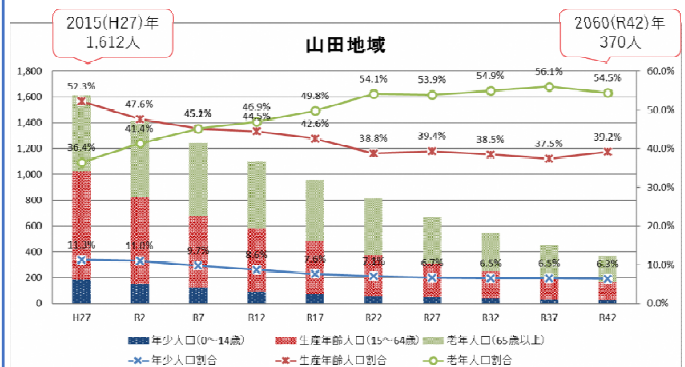


※横線は直近の公共施設への投資額の平均
※出典：富山市公共施設等総合管理計画

◆ 人口減少施設ニーズの変化

富山市の人口は、令和42年（2060年）には、現在から10万人以上減少し、約302,000人になると推計されています。

なお、山田地域では、令和42年（2060年）には、現在の人口の4分の3以上が減少し、370人となるとともに、約2人に1人が65歳以上の高齢者になると推計されています。人口減少、そして少子高齢化の進行により、公共施設へのニーズが変化するとともに、市税などが減収し、公共施設にかけられる費用はますます減少することが見込まれます。



※出典：富山市公共施設マネジメントアクションプラン戦略編（平成30年3月作成）

地域別実行計画の策定

地域別実行計画は、「富山市公共施設マネジメントアクションプラン」に基づき、地域の課題や特徴、まちづくりなど、地域の実情やニーズを踏まえ、公共施設の再編に向けた方針を定めるものです。

地域別実行計画は、「地域の将来的な公共施設の再編方針」と「優先して取り組むべき個別具体施設の整備方針」で構成されます。

地域別実行計画

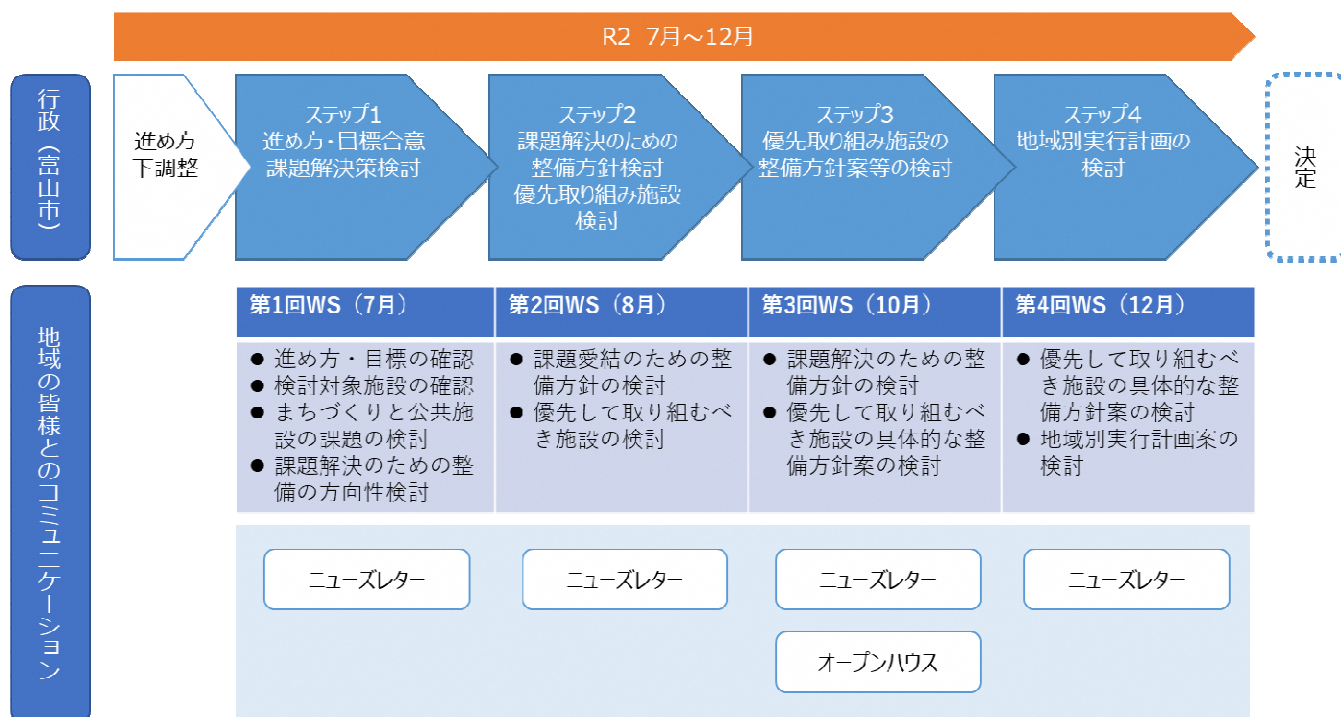
地域の将来的な公共施設の再編方針

施設の用途別に、5～20年を目途とした中長期的な取組み及び5年を目途とした短期的な取組みを進めるための整備方針を定めます。

優先して取り組むべき個別具体施設の整備方針

地域の公共施設の中でも特に課題が大きい施設を選定し、5年以内の実現を目指すための整備方針を定めます。

ワークショップの流れ（予定）



オープンハウス：住民の皆様が集まる施設などで行うパネル展示型説明会です。ここでもご意見をお聴きします。

山田地域 第1回ワークショップが開催されました

7月18日（土）、山田公民館にて、「山田地域 第1回まちづくりと公共施設の「これから」を考えるワークショップ」が開催され、山田地域にお住まいの25名の方が参加され、活発な意見交換が行われました。ワークショップでは、一部リモートでの対応や参加者の間隔を空けるなど、新型コロナウイルス感染対策にも十分配慮しながら実施しました。

今回のワークショップでは、3つのグループに分かれ、ワークショップの進め方の確認と、山田地域のまちづくりや公共施設の現状と今後について課題だと感じていることについての議論が行われました。最後には全体で議論した内容を共有し、第1回のワークショップを終えました。



第1回ワークショップの様子

第1回ワークショップで皆様からいただいたご意見

◆ 計画検討やワークショップの進め方について

■ 地域別実行計画の考え方や検討の進め方

- どのようなまちづくりをしていくべきか、若い人たちの意見を聞き取れるようにアンケート調査等を実施してはどうか。
- 平野部と山田のような中山間地域の公共施設の管理コストを比較すればどうしても中山間地域の方が費用対効果が低いと思う。全市で一律に比較できない部分があるということを念頭に置いて議論していきたい。
- 地域の中でも不要な施設もあれば、利用を促進することでなくさなくても良い施設もあると思う。新しい施設を建てなくても既存の施設を地域の住民で利用していけるようにしていきたい。
- どの公共施設もあった方が良いが、地域にとって不可欠な施設とあれば望ましい施設に分類して、後者から統廃合を考えていくこともできるだろう。
- 施設ごとにかかる年間の維持費が分かれば、利用率が高いのに維持費が少なければならず必要はなく、利用率が低く維持費が莫大であれば、負担を減らすにはどうすべきか考えやすい。市にお金がないことは理解したので、少しでも維持費を減らす方向に持っていければよいのではないかな。
- 複合化も含めた公共施設のあり方についてだけを検討するのではなく、施設ごとの空きスペースをどのように利活用していくのかなど、具体的に話し合いたい。
- 耐震状況や老朽化した建物等を知ることができたので、40年後のあるべき姿を検討するきっかけになり、良かったと思う。

■ ワークショップの進め方

- 時間内ですべての施設について検討することができるのだろうか。グループごとに施設を分担して検討していくことはできないのか。
- 時代の流れに沿って、リモートを活用したワークショップが開催されるのはありがたい。
- 今回の資料等の内容を踏まえて、残したい施設、残せない施設を具体的に考えていく必要がある。

◆ まちづくりの現状と課題

■ 人口問題・少子高齢化

- 人口減少が大きな問題となっている。このまま人口減少が進むと自分の子どもたちも山田地域に住み続けてくれなくなるのではないかと感じた。
- 若い世代が公共施設や地域のあり方をどのように考えているのかを参考にまちづくりの方向性を考えていきたい。
- 人口減少が進むと山林や田畑の維持も難しくなっていくので、どうやって人に住んでもらえるかという方策も考えていかなければならない。
- 高齢化が進み、一人暮らしの世帯も増えてきている。
- 少子化等で人口が少なくなる中でも、これまで通りの顔を合わせる地域の繋がりは大切にしていきたい。しかし時代の変化に合わせたリモートやオンラインの活用も進めていく必要がある。
- コンパクトなまちづくりも理解はするが、人口が減っていったとしても山田地域を今後も守っていくという意識を住民は持っている必要がある。

■ 定住・移住・関係人口

- どうしたら若い人たちに住んでもらえるのかということを考えたい。
- 地域外から山田に移住したいという人がいても家を建てる土地がないと思う。新たに住んでくれる人を受け入れられる環境をつくりたい。その一例として、空き家をうまく活用したい。
- 旧山田村のときには移住者を増やすよりも、外から人が観光で来てお金を落としていってもらうという地域活性化を目指していた。
- スキー場周辺に観光施設を集中させて一体的に運営していたが、今は運営主体がバラバラな状態になっている。
- 山田地域に光ファイバーケーブルは来ているが、テレワークをするには回線速度が遅い。関係人口を増やす方策としてテレワークができる場所にするのであれば、山田地域に高速な光回線を整備することが大事だと思う。

■ まちづくりの方向性・特色あるまちづくり

- 40年後の山田地域をどのような地域にしたいのかというまちづくりの方向性を考えていく必要があると思う。自然環境の維持や再生可能エネルギーの活用、U・I・ターン推進などを進めていけるような計画ができれば良い。
- 田舎での暮らしに興味を示すような若者も少しずつ増えてきているように思うので、どういったまちづくりをしていったら良いのかという視点に立ち、その上でどう公共施設を活かしていくのかを考えていけると良いと思う。
- 人口減少が進み田畑の維持が難しくなると思うが、循環型農業や都市型農業ができる環境をつくり、空き家等を活用して移住できるようにすると、農業に関心のある方の中には興味を示してくれる人も出てくると思う。
- 山田として教育に特色をつくっていきたい。子どもたちを山田の学校に通わせたいと思ってもらえるような特色をつくれると良いと思う。
- 朝日小学校のように小規模特認校制を導入して、学区外からでも通えるような学校にしていけるのはどうか。
- 温泉を活かした魚の養殖を進めて地域ブランドをつくっていくようなチャレンジもできると面白いと思う。

■ アクセス

- 山田地域の温泉やスキー場までの道路の除雪が芳しくないという課題がある。除雪のオペレーターが高齢化しているので、どのように除雪体制を維持し、冬場のアクセスを確保するのか考えていきたい。
- 山田地域が実は富山地域をはじめ近隣のまちへのアクセスが良いと山田地域に来てから初めてわかった。他の地域の人はアクセスの良さを知らないのだと思う。

■ 防災

- ハザードマップを参考に、危険性の高いところにはできるだけ住居や施設がないようにまちづくりを進めてほしい。
- 最近の豪雨被害をみると、山田地域の避難所に該当する場所が妥当なのか、チェックが必要だと思う。避難所としての安全性やアクセスの確保の部分もしっかり考えて議論すべきである。
- 自治振興会で避難場所について、地区の公民館を避難所にするということになった。地域住民の避難方法や情報伝達の方法等について示したハザードマップを作って配布した。
- 交流促進センターや総合体育センターが避難所となっているが、アクセスの不安もある。交流促進センターは、川の氾濫や、土砂崩れが起きた場合はたどり着けないのではないかなと思う。
- 避難方法のあり方を考えたい。避難所にどうしてもいけなくてはいけなくていいということではなく、安全な別のところでも臨機応変に対応できるようにすると良い。地域の危険な場所を知ること大切になってくる。
- 新型コロナウイルス感染症のことも考え、避難所は複数の場所でいざという時に機能できるようにしておかなければならない。

◆ 公共施設の現状と課題

■ 公共施設全般

- 公共施設の老朽化が同時期に重なっているため、公共施設の再編、改修計画を進めていく必要がある。
- 人口が減少しているので機能が重複しているような施設は集約し、空きスペースは有効活用を検討することで利用率をあげていきたい。
- 小学生、中学生の子どもたちが大人になったときに良かったと思ってもらえるような施設は残したい。みんなが使えるような複合施設を残せると良い。
- 40年後に人口が370人になると聞くと、残される子どもたちのためにも、やはり整理する必要があるのかなと思った。370人では維持しきれない。
- 公共施設が様々な場所に点在しており使いづらいと思う。水害等の危険性の少ない山田総合体育センターあたりに色々な機能の一つにまとめた複合施設を整備してはどうか。一つにまとめることでコスト削減にもなるのではないかな。

■ 公共施設全般

- ・山田小島地区周辺に様々な機能を集約した新たな施設を建てるのが理想的だが、市の財政的に厳しいと思うので、既存施設で不要なものをいかに整理することができるかが課題となるのではないかな。
- ・南砺市利賀行政センターには、様々な機能が1つの場所に揃っている。山田地域の公共施設も場所を集約したり、施設を複合化するなどできるのであれば、そのような利便性の良い使い方が出来たら良い。
- ・山田地域の住民だけで稼働率を上げるには限界があるので、他地域の人に利用してもらうために誘致するなどした方が良い。
- ・森のコテージ木MAMAや総合体育センター、総合グラウンドは、予約がとりやすい穴場ということを売りにしてPRすると良いのではないかな。

■ 集会施設

- ・山田公民館に行政機能や他の複合化できそうな機能をすべて持ってきて多世代が使うコミュニティセンターのような施設をつくってはどうか。
- ・山田公民館で秋に開催している子どもたちの発表会などは、学校の体育館で行うこともできると思うので、老朽化したタイミングで廃止するのもありだと思う。
- ・山田公民館は会議等でよく利用するので、利用率は良い。
- ・山田公民館は川沿いであり、危険性があると思う。
- ・山田交流促進センターはエレベーターが無いので高齢者にとって利用しづらい建物になっている。

■ スポーツ施設

- ・総合グラウンドはいつでも空いているが遠いと言われる。利用料が安いというメリットを活かせば遠くでも利用率が上がるのではないかな。
- ・婦中地域の学校の中には人数が多い学校もあり、部活動等でグラウンドや体育館を使うのも大変だと思うので、使ってもらいたいのではないかな。
- ・地域内のスポーツ施設は有料なので、無料で使える学校開放を利用している人が多い。利用率を上げるのであれば他地域の若い人に使ってもらいたいと思う。
- ・人口1人あたりの延床面積が山田地域は最も多いとの説明があったが、総合体育センターに関しては他地域利用者が主になっているため、別扱いにしてもいいのではないかな。

■ レクリエーション・観光施設

- ・山田は観光施設を多く持っているものでより多くの方々に利用していただけるような方法を考えられると良い。
- ・スキー場の冬以外の利用方法を考えることで利用率を上げたり、収入を増やす努力はできるのではないかな。宿泊施設などにも良い影響を生み出せると思う。
- ・レクリエーション施設や観光施設が多いのが山田の特徴なので、市内の小・中学生などに学校単位で使ってもらえるように営業すると良いのではないかな。
- ・牛岳温泉スキー場は、市街地からも近い場所にあるため、使いやすいと思う。造雪機があることが牛岳温泉スキー場の強みであり、他地域のスキー場が使えないときこそ、地域外からの人を呼び込むチャンスなのではないかな。

- ・牛岳温泉健康センターの日帰り施設の横に宿泊施設のふれあいの里ささみねがあるが、利用促進などの連携が取れていないようだ。この2つの施設と牛岳温泉スキー場は今後連携していかなければ活性化はしないだろう。
- ・今後は光回線を活かしてテレワークをするということも増えていこう。農泊の事業やテレワークなど関係人口を増やすための方策を考えることはできないかな。
- ・森のコテージ木MAMAはキャンプ施設だが、民泊利用や市民に売却して使ってもらいたいと思う。利用される方法を考えるべきだ。

■ 学校・保育所・児童館

- ・学校は地域住民が愛着を感じている施設なので残す方向で検討したい。
- ・昔から学校が地域の核になってきたと思うので、住民も学校に出入りできて交流を図れるような使い方を検討してほしい。一方でセキュリティの問題もあるので、対策は必要になるのではないかな。
- ・山田地域の学校に他地域から通っている子どもがいる。他にも潜在的に山田地域の学校に通わせても良いと思う子どもの親が他地域にいるのではないかな。
- ・他の学校では大人数の中で切磋琢磨しながら学校生活を送っている中、少ない人数での学校生活は果たして子どもたちのためになるのかという思いは正直ある。
- ・時代に合わせたオンライン教育等も考える必要があるのではないかな。
- ・保育所も老朽化している。園児の人数が減っており、存続が危ぶまれているが、山田地域のこれからのことに関わるので議論を深めていきたい。
- ・児童館の空き部屋等を利用して、子どもたちが利用する施設と福祉・介護施設を複合化するのも一つの手だと思う。

■ 庁舎

- ・中核型地区センターは耐震性に課題があるが、災害が起こった際の司令塔になる施設である。このタイミングで安全な場所に中核型地区センターを配置できれば良い。
- ・中核型地区センターは、農協、郵便局などの民間施設も含めて公民館に複合化して地域の核となる施設にしてはどうか。
- ・中核型地区センターと公民館を一緒にしたとしても、空き部屋がたくさん出るだろう。両施設とも壊して適正規模の新しい施設を作る、という考え方はできないかな。

◆ その他

- ・山田公民館と牛岳温泉健康センター以外の施設をあまり使ったことがなく良く分からないので、なかなか意見が言えない。
- ・市営住宅が数部屋空いているので、外から移り住んでくれるような人に使ってもらいたい。売却や他の活用方法も検討した方が良い。
- ・数年前に山田地域の宿泊施設は閉鎖するということになり、反対署名を持って富山市を訪ねたことがある。結果的に牛岳温泉健康センターを残すこととなったが、そのような経験があるので、市に意見を出して反映されるのかと疑問である。

ご意見募集

ワークショップに参加される方だけでなく、多くの山田地域の皆様のご意見を今後の計画に反映させたいという考えのもと、ご意見を募集します。

- ワークショップで検討されている内容について
- 山田地域のまちづくりや公共施設について

下記の「お問い合わせ先」まで、メール・ファックス・郵便・持参により、どうぞお気軽にお届けください。差し支えなければ、ご住所、お名前、年齢、性別、連絡先の記載をお願いします。

皆様のご意見をお待ちしています！



お問い合わせ先

富山市企画管理部行政経営課
電話：076-443-2021
ファックス：076-443-2170
E-mail：gyousei-01@city.toyama.lg.jp

公共施設マネジメントに関する情報

富山市の公共施設マネジメントに関する情報はHPでご紹介しています。
<http://www.city.toyama.toyama.jp/kikakukanribu/gyouseikeika/sougoukanrikeikaku/sougoukanrikeikaku.html>